

重症心身障害児（者）の嚥下状態の改善に

音楽を用いた効果の検討

～モーツァルトの音楽を活用して～

吉村千鶴 田中絵美 中尾たかみ 藤内益美 岡本聖子
鳥取医療センター看護部 5 病棟

*Correspondence: boutou5@tottori-iryuu.hosp.go.jp

要旨

筋緊張異常を伴う障害のある重症心身障害児（者）にとって、食事は楽しみだけではなくストレスの要因ともなりかねない。そのストレスにより、更に筋緊張亢進を誘発させている現状があることも否めない。そこで、食事環境にリラックス効果のあると言われているモーツァルトの 1/f のゆらぎ楽曲の音楽を取り入れたことで、食事時のリラックス効果を導き、筋緊張を緩和の傾向へ向け、摂食・嚥下状態に良い影響を与え、特に食事時間が短縮した。鳥取臨床科学 7(2), 129-134, 2016

Key Words: 音楽療法, モーツァルトの音楽, 1/f のゆらぎ, 筋緊張緩和, 重症心身障害児者

はじめに

重症心身障害児者（以下、重症児者）の 8～9 割は、痙直・固縮またはアテトーゼの筋緊張亢進を示すとされている。筋緊張亢進は二次的な合併症を引き起こすため、それに対する対応・治療は重症児者の **quality of life (QOL)** を維持する上で重要である。

摂食・嚥下機能も筋緊張亢進による影響を受け易く、誤嚥などによる摂食・嚥下障害の及ぼす身体侵襲は図り知れない。そのため、筋緊張のある重症児者にとって、食事は必ずしも楽しいことばかりではないと考えられる。食事は生活の中でも重要な位置を占めており、食事を楽しいものとするためのアプローチが重要な課題となっている。

近年、音楽療法に関心が持たれ始めており、先行研究でもモーツァルトの音楽が筋緊張の緩和に有効であったとの報告もある。馬場ら¹⁾は

「モーツァルトの音楽療法が副交感神経に作用したため、交感神経と副交感神経のバランスがとれた状態により、リラックスした状態に近づいたと考えられる。」と述べている。そこで私たちは、摂食・嚥下障害のある患者に対し、食事環境にモーツァルトの音楽を取り入れることで、食事時の筋緊張の緩和を図り、摂食・嚥下状態の改善に効果があるか検証するため、本研究に取り組んだ。少数例での検討であり、摂食・嚥下状態に有意な改善が見られた、とまでは言い難いが、音楽療法は重症児者の摂食・嚥下に悪影響をもたらさなかったことを報告する。

I. 研究目的

摂食・嚥下障害のある重症児者に対し、食事環境にモーツァルトの音楽を取り入れることで、食事時のリラックス効果を導き、筋緊張の緩和をもたらす、摂食・嚥下状態の改善に効果があ